

○精神障害にも対応した地域包括ケアシステム

「精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加・就労、地域の助け合い、普及啓発が包括的に確保されたシステム」

○国は、各自治体に対して、保健・医療・福祉関係者による協議の場を設置し、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築の推進を求めている。



仙台市精神保健福祉審議会を協議の場に位置づけ、

平成30年度から、国が示した構成要素を2つの大きなテーマに分けて、順次検討を開始

テーマ1 [地域における支援体制のあり方]

重度の精神障害があっても、
地域での生活を可能とする支援体制

- (1) アウトリーチ支援
- (2) 措置入院者等の退院後の医療等の継続支援
- (3) ピアサポートの活用

テーマ2 [精神障害者の地域移行の推進のあり方]

精神科病院で長期間の入院を余儀なくされている精神障害者の
退院促進に向けた支援体制の検討

- (4) 入院中の精神障害者の地域移行
- (5) 地域移行関係者の人材育成
- (6) 住まいの確保と居住支援

(1)アウトリーチ支援について

審議会から作業部会への付託事項

- ①保健・医療・福祉の連携による多機関協働支援体制の構築(チームビルディング)のあり方
- ②支援対象者の状態に応じた、効果的なアウトリーチ支援のあり方 (対象者例:精神疾患が疑われる未治療者、精神科治療中断者、頻回入院者等)

課題

①支援者の支援能力の向上:
支援方針の確立に向け、対象者に関する必要な情報を収集し組立て、正確なアセスメントや見立てを行うことが重要。

②対象者の状況に即した具体的支援の提供:
アウトリーチ支援は対象者の状況に応じ幅広い支援の展開が求められる。経験豊富な職員が支援に従事できない場合も少なくはなく、OJTなどによる人材育成を十分に行うことができないことがある。

③精神科医療機関との連携:
精神科医療機関との連携がある場合には、支援方針が確立されていることが多く、医療機関の協力により対象者への理解が深まることがある。

④支援の中心となる機関の役割機能:
支援方針に沿った活動継続に向け、支援の中心となる機関は、『協働する機関との役割分担や、各機関からの情報を集約しながら支援方針の適否を確認し、支援全体を統合する』役割を果たす必要がある。

課題解決に向けた方策

アウトリーチ支援における視点の共有や支援のノウハウ、スキルの平準化

対象者をより深く理解するために、支援者の習熟度に応じて関連する臨床能力の向上を段階的に図る

アウトリーチ支援に関するスーパーバイズ体制

医療・保健・福祉の統合的、多角的な視点から実際の事例に即した実践的なアドバイスや示唆を得られる機会の確保、拡充

アウトリーチ支援における精神医療的視点及び継続的な関与の確保

地域支援者と医療関係者との協働により、対象者の理解並びに幅と厚みのある包括的な支援機能・構造を実現する

多機関協働支援体制の強化

支援の中心となる機関を継続的にサポートし、支援全体を統合できるようバックアップする機能や機関を設ける

(2)措置入院者等の退院後の医療等の継続支援について

審議会から作業部会への付託事項

- ①措置入院者等の置かれている立場や想いを尊重するための支援のあり方
- ②措置入院者等の地域における支援のあり方

課題

①措置入院者等やその家族の支援に係る援助理念・技術・支援態度の獲得：
措置入院等の強制入院に伴う不全感を軽減したり、家族に対して適切な対応を促すために、支援者は当事者や家族のこれまでの経過や想いを知り、彼らの物事の見方や捉え方を深く理解し、真摯な態度で当事者の望む生活の実現に向け支援を行う必要がある。

②多様な支援者が入院早期から関わるための支援体制：
当事者は精神疾患だけでなく、様々な生活上の問題を抱えていることが少なくない。こうした問題に対応するためには、多様な機関や団体、個人、制度などの資源の活用が必要である。また、こうした多様な資源の活用が有効に作用するためには、支援者間の見立てや支援方針の共有が必要。

③当事者や家族を含めた多くの市民が精神疾患に関する知識を得ること：
通院の不安定さには、服薬の不安定さが関連している。背景には、病気を認識しにくいという精神疾患の特徴や、精神疾患・精神障害に対する社会的な偏見が影響している。当事者や家族を含めた多くの者が精神疾患・精神障害の適切な理解や対応を学ぶことで、メンタルヘルスの不調に対する早期の気付きや地域生活のしにくさの軽減を図る必要がある。

課題解決に向けた方策

措置入院者等やその家族の支援に係る援助理念・技術・支援態度の獲得

当事者の立場に立脚した物事の見方や捉え方を深く理解することに向けて、機会を捉えたOJTや研修のほか、措置入院等を経験した当事者やその家族の生の声を聴く機会を設ける。

支援の早い段階から多様な支援者が関わるための連携体制の構築

支援にあたる者がお互いの立場や考え方を理解するために、それぞれに所属する組織を超えて、よりよい支援のあり方について意見を交換したり、支援を行う上での苦労や悩みを共有する機会を設ける。

精神疾患・精神障害に関する正しい知識と対応についての学び

治療の継続のしにくさの背景には、病気であることを認識しにくい精神疾患・精神障害の特徴に加え、精神疾患・精神障害に対する社会的な偏見や無関心が影響していると考えられるため、できるだけ若年の段階から多くの市民が精神障害に対する正しい知識や適切な対応を学ぶ機会を設ける

(3)ピアサポートの活用について

審議会から作業部会への付託事項

- ①多くの当事者がピアサポートに関心を持つための工夫
- ②ピアサポートに関する学びを促進するための工夫
- ③当事者間の情報交換や共有を進めるための工夫
- ④ピアサポートの活動形態や活動場所を増やすための工夫

課題

- ①ピアサポートに関する具体的なイメージ形成を促す情報発信：
当事者に、ピアサポート活動の具体的な情報が、十分に行き届いていない。
ピアサポートに携わる個人や一団体では、広く情報を周知することが困難。
- ②当事者の期待に沿ったピアサポートの提供：
当事者の期待に沿ったピアサポートが行われない場合、当事者間の関係性に不和や葛藤が生じる。そのことが、ピアサポートへの不信感につながり、活動の継続を難しくする。
- ③ピアサポートの実践を支える理念や知識の段階的な習得：
当事者同士で支え合うことについて、相手に過剰な負担をかけてしまう、などの不安や心配がある。不安軽減に向け、相手との適切な距離感の維持、自身の体調の安定が大切。
- ④ピアサポートの過程で生じる悩みや困りごとへの対処：
ピアサポートが安定的かつ継続的に行われるためには、仲間関係が維持され、活動で生じる様々な悩みや困りごとが適切に解決されることが必要。
ピアサポートという仲間関係では扱いにくい問題の解決には、支援者の協力が必要。
- ⑤市民の精神疾患・精神障害に関する理解：
精神疾患に対する偏見があり、ピアサポートも好意的に捉えられていない。このことがピアサポートに新たに参加することや、活動を広く展開することを困難にしている。

課題解決に向けた方策

- ピアサポートに関する情報収集・発信を一元的に行うプラットフォーム
気軽に情報を得ることができるよう、ピアサポートに関する情報収集や安定的な情報提供
ピアサポートの関心が高まるよう、ピアサポートを試行的に体験できる機会
- ピアサポートを希望する当事者とピアサポートに携わる当事者・活動内容のマッチング
ピアサポートを求める当事者が、自身が期待することに沿ったピアサポートを選択できるよう、
ピアサポートに携わる当事者や活動内容とのマッチングのための相談調整機能
- 当事者を対象としたピアサポートに関する体系的な研修
ピアサポートに対する不安や心配を軽減し、新たな担い手となり、活動を継続するため、ピアサポートの実践を支える理念や知識について、段階的かつ継続的に学ぶ機会
- ピアサポートに携わる当事者が悩みを相談できる機会やスーパーバイズ
ピアサポートで生じる悩みについて、経験やノウハウが豊富な当事者に気軽に相談できる仕組み
- 支援者を対象としたピアサポートに関する研修
支援者が仲間関係を基盤にしたピアサポートの理念や求められるサポートについて、学ぶ機会
- 市民を対象とした当事者主体の精神疾患・精神障害に関する普及啓発
市民が、当事者が病気とうまく付き合いながら生活する健康的な側面を知り、精神疾患・精神障害に対する偏見の是正を図るため、当事者を主体とした普及啓発活動